

魚類防疫に関する技術指導と研究

(魚病対策指導事業)

清川智之・山根恭道

1. 研究目的

種苗生産・中間育成・養殖時に発生する魚病を予防し、被害を最小限に抑えるため、水産生物の疾病診断、防疫指導を通して、飼育担当者の防疫技術の向上を図り、魚類養殖増養殖を推進する。

2. 研究方法

飼育担当者から持ち込み、または巡回指導時に入手した標本を検査に使用した。

3. 研究結果

本年度の疾病検査結果は下表の通りであった。

	月 日	魚 種	場 所	疾病名・症状・指導内容等
平成 12 年	3月 21日	トラフグ	鹿島町恵曇	白点病 白点病が死亡の主因だが、歯切り後、すぐに水温を 17 から 20 に上げたことが白点病発生に繋がったと思われる。 手の施しようがなく全滅した。
	7月 21日	ヒラメ	大社町宇竜	イクチオポド症 寄生数がわずかだったので、換水率を上げて様子を見るよう指導した。
	9月 8日	ブリ	大社町御碕	不明 ハダムシ除去のための淡水浴を実施した後に急激な水温上昇(26 29)があり、その直後に斃死が急増したことから、高水温とハンドリングによるストレスが原因によるものと思われる。 餌止めをするよう指導した
	12月 1日	オニオコゼ	大社町宇竜	糸状菌症・滑走細菌症 体表面に付着。 滑走細菌症対策としてニフルスチレン酸ナトリウムによる薬浴を指導。
平成 13 年	1月 11日	ヒラメ	浜田市	貧血症 調査個体の平均体重 300 g、半数の鰓は真っ白で、腎臓・脾臓などの臓器も著しい貧血を呈していた。しかし、ネオヘテロポツリウム虫体を発見できた個体は 2 / 3 程度であった。個体によってはひどい痩せが起きていた。 全数出荷したうえで消毒・風乾し、次に入る種苗と接触させないことが必要と指導した。

3月 21日のトラフグは平成 11 年度事業報告に未報告であったのでここで記載した。